

がん薬物治療スキルアップコース（インテンシブ）

松山大学大学院医療薬学研究科では、実践的内容でがん医療における最新の動向を学ぶことを希望される薬剤師（病院、薬局勤務あるいは大学院生）の方々のために、平日の夜間や土曜日に集中して開講する昼夜開講制コースを設置しています。

このインテンシブ（後期、半年）では、大学院医療薬学研究科の開講科目「がん医療薬学特論」（2単位）の履修と講演会の聴講を受講条件としています。【「がん医療薬学特論」のシラバス参照】

受講していただき修了された方には「履修証明書」を発行します。生涯学習やキャリアアップなどそれぞれの目的達成のためにお役立ていただければと思います。

募集人員

3名

受講資格

薬剤師

出願書類

1. 受講願書（本学所定の用紙）
* 氏名記入欄に押印をすること（1箇所）
2. 薬剤師免許証のコピー

出願締切

2023年7月31日（月） ※郵送で 松山大学薬学部事務室（〒790-8578 松山市文京町4番地2）まで

選考方法

書類選考の上、履修生を決定します。選考結果については、8月中旬に通知するとともに手続書類（許可書、履修生登録届、誓約書並びに納付書）を送付します。

納付金等

履修生と許可された者は、指定期日内に次のものを提出してください。指定期日中に手続きを履行しないときは許可を取り消します。

1. 科目履修登録料：年額10,000円（ただし、本学薬学部卒業生及び本学大学院修了者は5,000円）
2. 科目履修料：20,000円（1単位10,000円）
3. 履修生登録届、誓約書
4. 納付締切日 2023年8月31日（木）

金融機関から指定の振込用紙で振込（電信扱い）をしてください。

（ただし、1、2について、本学大学院生は無料）

注意事項

1. 一度提出した書類及び納付金は返却しません。
2. 提出書類に虚偽の記載があった場合には、許可を取り消します。
3. 講義日程・講義内容は、都合により変更することがあります。その際、受講者に個別にお知らせします。
4. 受講希望者が定員を満たさなかった場合には、未開講とさせていただきます。その場合、納付金を返却いたします。

問い合わせ先

薬学部事務室 E-mail：mu-yakugaku@matsuyama-u.jp Tel：089-926-7193（平日9:00～16:00）

授業コード・科目名 (クラス)	単位数	年次	開講期	担当者	入学年度
Class Code・Course Title	Credits	year	term	Instructor(s)	start year
W028000 がん医療薬学特論	2単位		2023年度後期	渡邊 真一、武智 研志	2023年度

1. サブタイトル Subtitle

最近のがんの薬物治療：薬剤師としての基礎と応用

2. 関連する教育諸方針 Course-Related Policies: Diploma and Curriculum Policy

この科目は、医療薬学研究科の学位授与の方針「高度な専門性をもって患者に最適の薬物治療を提供できる能力」および「薬物を適正に使用する上で生じる問題を科学的・社会的に解決できる能力」と関係する。

3. 授業科目のテーマと目的 Theme of the Course

がん治療専門薬剤師のための基盤となる知識、実践応用についての知識について、理論的・技術的背景、臨床上への応用例を通して最近のがん薬物治療法の概念と具体化の方略を理解する。

4. 授業形態 Class format

メディア授業

5. 授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度 Course Description and Outline

第1回目 臨床試験データの読み方① (講義)

備考：メディア授業。Teams利用、クラスやURLはメール等で告知する。

第2回目 臨床試験データの読み方② (講義)

第3回目 がん治療に伴う難治性の副作用① (講義)

第4回目 がん治療に伴う難治性の副作用② (講義)

第5回目 がん治療に伴う難治性の副作用③ (講義)

第6回目 がん化学療法 Up to Date (講義)

第7回目 分子標的治療薬 Up to Date (講義)

第8回目 免疫チェックポイント阻害薬 Up to Date (講義)

第9回目 副作用対策 Up to Date (講義)

第10回目 がん薬物療法でのチーム医療 (講義)

第11回目 これまでのがん疼痛薬物療法 (オピオイドを中心に) (講義)

第12回目 最新のがん疼痛薬物療法 (オピオイドを中心に) (講義)

第13回目 がん疼痛薬物療法に伴う副作用対策 (講義)

第14回目 がん疼痛薬物療法と経済的評価 (講義)

第15回目 がん疼痛薬物療法と薬薬連携 (講義)

6. アクティブラーニング要素 Active learning

7. 利用教科書 Textbook (s)

書名(Title)	著者(Author)	出版社(Publisher)	ISBN番号(ISBN)	発刊年(pub,year)
-----------	------------	----------------	--------------	---------------

8. 参考書 Reference Book(s)

書名(Title)	著者(Author)	出版社(Publisher)	ISBN番号(ISBN)	発刊年(pub,year)
-----------	------------	----------------	--------------	---------------

※教科書・参考書以外の資料 Materials other than textbooks and Reference Books

講義の都度、対応するプリント、学術論文などを配布する。

9. 準備学習(予習・復習) Expected Work outside of Class

時間

履修登録の対象者には事前にプリント配布と学習ガイドラインを示すので、それによって予習を行うこと。	1.0 時間
講義後にまとめレポートの作成を行う。	3.0 時間
合計時間	4.0時間

1 0. フィードバック Instructor Feedback
課題レポートについてフィードバックする。
1 1. 評価の方法・基準 Criteria for Evaluation
レポート80%、授業への取り組み20%で評価する。レポートの提出は、授業内容に関するテーマについて4回程度を予定している。
1 2. 学習の到達目標 The Main Goals of the Course
第1、2回目 がん薬物療法に必要な医薬品情報学の理論・方法について論理的に説明できる。疫学的調査方法について例を挙げて説明できる。 第3～5回目 がん化学療法の際に生じる薬剤の副作用とその対処方法について、例を挙げて論理的に説明できる。 第6～10回目 がん化学療法における薬剤師の果たすべき役割と問題解決の方略について、臨床上のエビデンスを例に説明できる。 第11～15回目 がん緩和医療における薬剤師の果たすべき役割と問題解決の方略について、臨床上のエビデンスを例に説明できる。
1 3. その他留意事項について Additional Instructions / Comments to Students
1 4. ナンバリング Numbering
—
1 5. 実務家教員 Practitioner-Teacher
1 6. 曜日時限 Schedules